

放課後等デイサービス 夢門塾 自己評価表

記入日: 2024年12月26日

事業所名: 夢門塾ゆうゆう高木3組

	チェック項目	はい	どちらか	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	① 利用定員と指導員数確保のスペースは適切である	4	1	0	・定員以上の受け入れを行った際も通常通り過ごす事ができていたため適切であると思う。 ・気持ちを崩した児童がいると距離を取るのに難しい場面もあるが、通常適切である。場所を大きく使ってしまう児童に声を掛け、他児童への配慮工夫ができるように良い広さである。 ・ホムルームも子どもたちを誘導して、スペースを整えられている。 ・学習ルームを整え、公文を集中して行う環境がある。 ・部屋を区切る事で、落ち着ける場所にしたりと工夫している。
	② 職員の配置は適切である	1	4	0	・留守が必要な曜日に合わせて、勤務調整している。 ・念な休み等により変更になる場合がある。 ・日によって人員が少ないと感じる事が多い。個別対応が多いと配慮が十分でないと感じる。
	③ 衛生面の管理が行き届いている	4	1	0	・定期的に細部の清掃もしている。次亜塩素酸での消毒、おもちゃのアルコール消毒もしている。 ・個人的に汚れが目立つ部分の清掃を心掛けている。
業務改善	④ 業務改善を進めるためのPOCAサイクル(目録設定を繰り返す)に、広く職員が参加している	5	0	0	・私の歩みで目標を立て実践している。 ・ミーティング等での振り返りや改善を意図して行っている。 ・話し合いの場を設けて職員全員で話すことができる。
	⑤ 保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者様の意見を把握し、業務改善につなげている	5	0	0	・アンケート結果で実施できるものは実施している。すぐに難しいものは、話し合いを行い、どのように実施できるか検討している。
	⑥ 自己評価の結果を公開している	5	0	0	・ホームページで、毎年公開している。
	⑦ 職員の資質向上のため、会議・研修の機会を確保している	5	0	0	・職員全体での研修が月1回、その他専門職に分かれてのミーティング等も多し。高木123組は毎日の朝礼で情報共有、支援についての話し合いの場も持っている。 ・外部研修についても参加している。
	⑧ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者様のニーズや課題を客観的に分析し、個別支援計画を立てている	5	0	0	・相談支援事業所と相互内容相違なく計画を立てることができる。モニタリングを行い、ニーズや課題をしっかりと抽出できている。 ・保護者の意見や子どもの現状を話し合った上で設定していると感じる。 ・モニタリングが細く継続的に支援内容を更新している。
	⑨ 活動の計画をチームで行っている	4	1	0	・週間活動の内容で特定の職員に偏りがちなものを防ぐため全員がいつでも主になって行動できるように体制を整えている。 ・担当を決めたり、話し合いをして計画を立てている。
	⑩ 活動の計画が固定化しないよう工夫している	2	3	0	・前月以前の行事を確認しながら行っている。運動が少ない等偏らないように工夫している。 ・子どもたちに楽しんでもらえるように意図しながら計画を立てている。 ・新しいプログラムの計画が進んでいないように感じる事もある。道具等も揃えて行えるようにしていきたい。
適切な支援の提供	⑪ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題を決め、細やかに設定し、支援している	5	0	0	・休日や長期休暇でめんどくさい活動を取り入れている。 ・各イベントにどのような課題、強みがあるのか夢遊病や長期休暇のしおりに記載し、実行している。 ・季節に合わせて活動を取り入れたり、子どもに合わせて支援を取り入れている。
	⑫ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、活動を計画している	4	1	0	・基本の活動に入る事ができにくい児童が参加できる活動を用意している。 ・個別で対応を行う支援を取り入れている。
	⑬ 支援開始前に、職員間で打ち合わせし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	2	0	・朝礼後に支援について話し合いを行う。活動や公文担当を決めている。 ・場合により、十分な話し合いが行えない事もある。
	⑭ 日々の支援に関して詳しく記録をとる事を徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	0	・客観的視点で記録をとる事は出来ている。時には関わった者ではなく第三者からの視点を入れ、多方面から検証している。 ・気づきを漏れなく記録する事を心掛けている。
	⑮ 定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しを判断している	5	0	0	・半年毎にモニタリングを行い、その都度カンファレンスを行っている。目標達成できていた場合、次の目標を定めることができる。
	⑯ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	4	1	0	・ガイドラインが十分把握できていないと感じるが、夢門塾の方針に沿って運営できていると感じる。
	⑰ 学校との情報共有(年間計画・行事予定等)や定期的な交換、子どもの下校時刻の把握等、連絡先(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	3	2	0	・コドモンやLINEを活用して行っている。市から発行されるものやご家族様からの情報を元に下校時間に関連がないよう努めている。 ・下校時間に関連がないなどのトラブル発生時には、学校へ連絡を行うよう一連絡先を控え対応している。
関係機関・保護者様との連携	⑱ 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所または学校等の情報共有と相互理解に努めている	0	5	0	・相談支援事業所からの情報を活用している。
	⑲ 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供している	0	5	0	・該当者がおらず、まだその機会がない。
	⑲ 児童発達支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0	5	0	・府中市の連絡協議会への参加を行っている。 ・福山市の放課後等デイサービス連絡協議会への参加を行っている。
	⑲ 日常的に子どもの状況を保護者様と連携し、発達状況や課題について共通理解を受けている	5	0	0	・モニタリング時だけでなく、送迎時、時には電話やLINE等で連携して話し合いの場を持っている。
	⑲ 運営規定、支援の内容、利用者負担率に付いて丁寧な説明を行っている	5	0	0	・契約時以外でも規定の変更があれば書面等でお伝えをしている。 ・お迎えや送迎時に担当の支援内容や様子をお伝えしている。その他コドモンと連絡帳での発信を行っている。
	⑲ 保護者様からの子育ての悩み等に対する相談に応じ、必要な助言を行っている	5	0	0	・保護者様に寄り添えるような言葉をおかけると共に必要な助言を行う事に努めている。
	⑲ 保護者会等を開催し、保護者同士の連携を支援している	0	5	0	・今年度の開催には、12組との合同開催だったため参加者が望まなかった。夏休みの参観日や祭りでは自然と保護者様同士の繋がりが見られた。
保護者様への説明責任等	⑲ 子どもや保護者様からの苦情について、対応体制を整備し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	0	・苦情はないが、保護者様からの疑問、質問などの問い合わせには早急に対応する事を心掛けている。
	⑲ 定期的に会報等発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を発信している	5	0	0	・毎月「夢」よりを発行。肖像権で承諾を得た児童の写真も掲載して活動内容を分かりやすく発信している。
	⑲ 個人情報保護に十分注意している	5	0	0	・個人情報、肖像権については事前に承諾をいただき使用の際は十分取り扱いに注意している。
	⑲ 障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	0	・視覚支援を重視した支援に配慮している。 ・分かりやすい表現や絵カードを用いるなど工夫を行っている。
	⑲ 地域の行事に参加したり、事業所に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を行っている	2	3	0	・高齢者施設を含めた法人全体の祭りに参加している。
	⑲ 緊急対応、防災、感染症マニュアルを策定し、周知している	5	0	0	・マニュアルを策定し、周知している。
	⑲ 非常災害の発生に備え、定期的に避難訓練を行っている	5	0	0	・それぞれの災害を想定した訓練を計画し、全曜日で実施している。
非常時などの対応	⑲ 虐待防止のため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	0	・職員全員がオンラインでの研修に参加して学びの機会、また自身の支援の振り返りを行っている。
	⑲ いかなる場合も身体拘束を行うか否かについて、組織的に決定し、子どもや保護者様に事前に十分説明し、了承を得た上で支援計画に記載している	5	0	0	・契約時、説明を行っているが、その状況は発生していない。対象の状況が発生した場合、事前にご家族様へ説明を行う事になっている。 ・パニックに対する対処法は、事前にアセスメントを行っている。
	⑲ 保護者様に記入いただいた与薬表をもとに、子どもへの投与を行い、チェックを行っている	5	0	0	・服薬が必要な場合、保護者様に記入いただいた与薬表、口腔内に残渣がないかなどと共に2名での確認を行っている。
	⑲ ヒヤリハットを振り返り、事業所内で共有している	4	1	0	・書式が変更され再始動。これからの皆さんの気づきを増やしていきたい。
	⑲				
保護者様評価、自己評価についてまとめ					
保護者様評価では、家族会の開催時期や日程に課題のある結果となった。自己評価については、職員間での意識差を無く質の高い支援を目指したいと感じた。					